

聖なるものの刻印

科学的合理性はなぜ盲目なのか

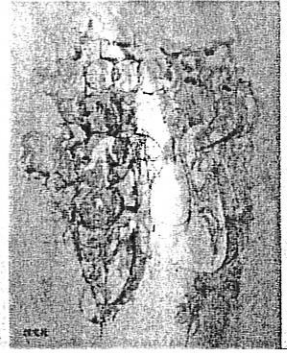
ジャン＝ピエール・デュピュイ著

西谷修、森元康介、渡名喜庸哲訳

へこの本で示そうとするのは、われわれが理性と呼んでいるものもとは宗教的経験に根差しており、その消しがたい痕跡をとどめているということだ。広範な分野を越境して現代文明の破滅的状况に批判的アプローチを続ける著者が、その理論的考察と思考の歩みを綴る。グローバルに拡張される核の脅威やバイオ、金融工学、開発・汚染のエスカレーションという多難な現実を斬り込み得ないまま「文明の進化」を担う先端科学、社会科学の無自覚さ・危うさを指摘、その罨から抜け出る道筋を「聖なるものの刻印」として示唆。自身の「知的道程」の地平を集大成的に展開した刺激に満ちた破局論だ。

聖なるものの刻印

科学的合理性はなぜ盲目なのか
ジャン＝ピエール・デュピュイ 著 西谷修・森元康介・渡名喜庸哲 訳



B6判 / 343頁 / 3200円
以文社